

## 第2回 教育支援コーディネーター・ミーティング（報告）

# 対話を通じて発見する“コーディネーターのいま これから”

～「ひとりで」から「つながりのなかで」考える～



各地域で活動する教育支援コーディネーターのスキルアップとネットワークづくりのために、研修会「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。

平成25年度第2回の研修は、平成20年度当初からこの事業に取り組んできた町田市立町田第一小学校を会場に、開催することができました。宮島校長先生からも、冒頭御挨拶をいただきました。

今回のプログラムは、コーディネーターの経験者3名から、問題提起として、3分程度で話していただき、その話題を中心に、グループごとにコーディネーターおしこの経験交流から学ぶ機会として企画しました。

当日は、多摩地域を中心に、この取組を始めたばかりの地域・学校から、または3、4年とすでに経験されているコーディネーターの方々が5名程度の一組のグループとなり、経験を踏まえて対話するひと時となりました。

### ■開催日時、開催場所

平成25年11月19日（火） 14時～16時30分  
町田市立町田第一小学校 ランチルーム

### ■対象

教育支援コーディネーター（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター）、区市町村学校支援地域本部事業担当者等

### ■参加者

新宿区（1）、大田区（1）、杉並区（2）、  
八王子市（2）、町田市（16）、日野市（3）、多摩市（5）、  
稲城市（4）、日の出町（1）、その他（2）  
計37人



普段は校長室の廊下側に貼られている、町田第一小学校における学校支援ボランティア活動の取組を紹介するコーディネーター手作りの掲示物、約3年分を、会場のランチルームに展示していただきました。

### ■テーマ

対話を通じて発見する“コーディネーターのいま これから”  
～「ひとりで」から「つながりのなかで」考える～

### ■プログラム内容

□問題提起を踏まえた経験交流

進行：白鳥円啓さん（板橋区成増小学校支援地域本部地域コーディネーター）

その1 話題提供者：相澤真理さん（町田第一小学校ボランティアコーディネーター）

その2 話題提供者：布 昭子さん（小平市立学校 学校支援コーディネーター連絡協議会会長）

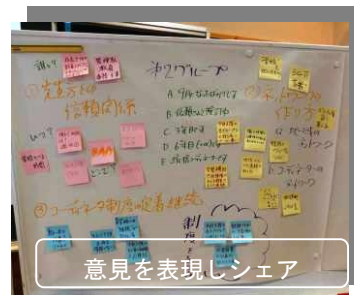
その3 話題提供者：椋下聡美さん（NPO 法人世田谷まなびネット理事長）



話題提供



グループごとに経験交流



意見を表現しシェア

### □問題提起その1 相澤さんの話題提供「先生とつながるために」

- ・9年前に1年生の生活指導補助者となり、週一の学校支援ボランティアの活動を始める。平成21年度からは「学校支援ボランティアコーディネーター」として活動し5年目である。
- ・コーディネーターとして先生たちと情報を共有するために、「積極的な各クラスの参観」、「頼まれた仕事の途中経過報告や期限厳守」など、心がけてきた。
- ・また、先生方の求めにこたえるために「地域の行事や都のフォーラムなどへの積極的な参加」などで、人材を紹介できるようにコーディネーターとしての引き出しを作ってきた。
- ・いまでは、副校長先生の進行管理のもと先生方と連携している状態である。新年度には、町田第一小学校に異動していらした先生方には必ず紹介していただいている。
- ・先生方とは、お互いを生かしあう“信頼関係”が大切だと、あらためて認識している。

#### □グループごとの意見交換

相澤さんの経験を聞き、「先生方との信頼関係」をテーマに意見交換をしました。  
参加者の感想より) 先生とのつながりの重要性を再確認できました。

### □問題提起その2 布さんの話題提供「校外のネットワークづくりのために」

- ・小平市教育委員会が開催した、経験が1年から3年目のコーディネーター研修でのこと。
- ・研修参加者である小学校担当のコーディネーターから次のようなつぶやきが聞かれた。「5年生を対象とした「二分の一成人式」に、30種類の職業の方を招いて授業をしたいとの、初めての授業支援の相談を受けた。期待に応えたいが、当日まであと3週間、二人の担当コーディネーターでは、どうしたらいいのか」と。
- ・その場に居合わせた10校の小中学校のコーディネーターが、自分の学校でどんな方々に学校に来ていただいたかの情報交換が始まり、いまから声をかけてもいまからきていただけそうな方、15名があつという間にリストアップされた。
- ・私(布)自身、個人的に相談されても、それだけの方々を上げることはできなかった。また、その情報交換を通じて、あらためて地域の人材を知ることでもできた。

#### □グループごとの意見交換

布さんの経験を聞き、「校外のネットワークづくりのために」をテーマに意見交換をしました。  
参加者の感想より) 学校との関わり、地域との関わりについて勉強になりました。

### □問題提起その3 棕下さんの話題提供「コーディネーターの取組が学校に定着し続けるために」

- ・まだ学校支援の「コーディネーター」というモデルがなかった時代、ある学校支援を取り上げたテレビ番組を見て心を動かされ活動を始め、かれこれ10年以上の経験となった。
- ・経験を積むことで、どんなトラブルが起きても対応できる、という自信にはなっていると思う。
- ・そんな自分でも、ふと「これでいいのかな」と立ち止まり考えることがある。立ち止まり考えるのは、例えば「そもそも何のためなのか」「いまの自分の力量でできること、できないことはなにか」ということ。
- ・子供の成長を見届けるためにも、継続した取組が必要で、先生方の信頼を得ることはもちろん、一人で抱え込まず、次のコーディネーターの担い手の発掘も視野に入れつつ、多くの方たちとつながることが大切だと思う。

#### □グループごとの意見交換

棕下さんの経験を聞き、「取組が学校に定着し続けるために」をテーマに意見交換をしました。  
参加者の感想より) 私たちの10年後の姿ですね！子供達のために、自分のためにがんばりたいです。

#### 参加者のプログラム全体を通じた感想より

- ・コーディネーターの在り方がうっすらわかったような気がします。関係のある方々と信頼関係がいかに大切か認識できました。
- ・問題提起の1、2、3全て、私自身がコーディネーターをさせていただく上での目標につながりました。
- ・コーディネーターとして大きな壁にぶつかっていましたが、今日の意見交換で又一步前進できそうです。
- ・他市のコーディネーターの方との話ができてよかったです。別の視点から考えることができました。
- ・活動は長いスパンで考えていかなければいけないと思いました。
- ・他の地域の状況が良くわかって良かった。発展的に多摩地域のコーディネーターが、市を越えて集まろうという声があがって素晴らしいと思いました。